



林業普及現地情報
2021-36号(通算432号)
令和4年3月3日
一関農林振興センター
記述者 後藤幸広

一関地区伐木技術普及研修の実施について

1 はじめに

令和3年の県内の林業における死亡労働災害は令和4年1月末現在で5件発生し、うちチェーンソー作業に起因する事故が3件となっており、林業従事者の安全意識や伐木技術の向上等が喫緊の課題となっています。

このため、管内の林業事業体で伐木作業に従事する技術者を対象に、労働災害の未然防止(安全意識の醸成、伐木技術の普及・定着)を目的とした伐木技術普及研修会を開催しましたので、その概要を報告します。

2 研修内容

令和4年2月8日(火)に一関市大東町摺沢地内の一関地方森林組合事業本部の施設において、岩手県伐木技術指導員の武田一吉氏(一関市大東町在住)を講師に迎え、4事業体から技術者4名*の参加により実施しました。

(1) チェーンソーのメンテナンス・目立て

武田氏から、メンテナンスの重要性、チェーンソーの安全装置の役割及び安全な伐木技術等に関する講義をいただいたのち、参加者が持参したチェーンソーの安全装置の点検・整備及び目立て状況を確認しながら、一人ひとりに正しいメンテナンス・目立て方法を指導していただきました。



【目立て指導の様子：講師(左下)】

(2) 伐木技術の基礎実習

今回の実習方法は、丸太(長さ1m、径30cm程度。専用治具で固定)を用いて、受け口角度を45度、伐倒方向を15m先に設置したポールとする簡易な伐倒実習としました。

武田氏からは、安全でかつ効果的な受け口の作り方(大きさ、角度など)を中心に指導していただき、チェーンソーのガイドバーを水平に保持するコツや、参加者が実際に作った受け口角度や伐倒方向と目標ポールとの誤差を実測し、一人ひとりに改善点などを丁寧に繰り返してアドバイスしていただきました。



【伐倒実習の様子】

3 おわりに

今回の研修は、伐木技術の基礎に重点をおいたプログラムとしたため、経験豊富な参加者への効果が心配されましたが、研修終了後のアンケートでは、「自分の技術レベルを認識できた」、「伐倒技術の基本を再認識できてよかった」、「これまで我流だったため参考になった」といった感想が寄せられました。

このことから、本研修内容は従事年数を問わず有効・効果的であり、研修自体の安全性確保にも繋がったと考えます。

最後に、研修参加者には、研修成果を現場作業で実践していただき、会社の同僚やこれからの若い世代のお手本となっていていただくことを期待しています。

*伐木作業の従事年数：5年未満が1名、10～15年が2名、30年以上が1名